

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジョブサU18千葉教室			
○保護者評価実施期間	2025年12月22日		～	2026年1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	2026年2月16日		～	2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○訪問先評価実施期間	2025年12月22日		～	2026年1月30日
○訪問先評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援から放課後等デイサービス、就労移行支援まで、お子様の成長を多角的にサポートする各業態を運営している。	訪問中での情報提供の範囲を出来る限り多岐にわたって行えるよう法人として幅を広げていく。	各事業間の連携を一層強化し、児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援を通じて、より効果的で一貫性のある療育の提供を目指す。また、就労移行支援との連携を図ることで、将来を見据えた切れ目のない支援体制を構築し、より深度のある支援の実現に努めていく。
2	給付管理業務を本部で一括している為、直接支援を優先した動きを取ることができている。	他事業所との請求関連の連絡も本部で行っている為、やり取りがスムーズで効率化を図ることができている。	現時点では請求書の発行は教室業務としている為、その部分も切り分けられるよう、検討を重ねていく。
3	日頃療育を提供しているお子さまに対して訪問支援を実施できる体制があり、訪問先施設で把握した課題や状況を速やかに事業所内で共有することで、日常の療育に反映し、より効果的な支援につなげている。	訪問支援で得た情報を速やかに職員間で共有する仕組みを整え、支援内容の一貫性を意識している。	訪問支援と事業所内療育の連携をより強化するため、ケース会議や振り返りの機会を充実させ、支援方針の精度向上を図っていく。情報共有の質を高めるため、記録様式や共有方法の標準化を進め、より迅速かつ確かな支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用ニーズの増加に対して、状況によっては迅速な受け入れや対応が難しい場合がある。	訪問支援は個別対応が中心であり、対応できる職員数や訪問可能時間に制約があるため。また、訪問先施設との日程調整にも時間を要することが要因となっている。	計画的な受け入れ調整やスケジュール管理の精度向上を図るとともに、職員の育成・確保に努めていく。効率的な訪問ルートや支援体制の見直しを行い、対応力の向上を図る。
2	訪問先施設における保育所等訪問支援の理解が十分でない場合があり、カンファレンス等の機会確保が難しいことがある。	保育所等訪問支援の役割や目的について、施設側に十分に周知されていない場合があるため。また、施設側の業務多忙により、時間確保が難しい状況がある。	サービス開始前の事前訪問時や日常的な関わりの中で、支援の目的や意義について丁寧に説明し、理解促進に努めていく。短時間でも実施可能な情報共有方法の工夫や、柔軟な時間設定を行い、カンファレンス機会の確保につなげていく。
3			